

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32689

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2017～2022

課題番号：16KK0089

研究課題名（和文）折衷的平和構築論の発展に向けたアジア地域研究との共振と相互作用の推進（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Promotion of Synergy and Interaction with Asian Area Studies for Development of Hybrid Peacebuilding(Fostering Joint International Research)

研究代表者

上杉 勇司 (Uesugi, Yuji)

早稲田大学・国際大学院・教授

研究者番号：20403610

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,100,000円

渡航期間： 16ヶ月

研究成果の概要（和文）：編著と共編著を含む4冊の英語の研究書を出版した。同時に、英語の研究書の一章を分担した出版数は単著は4冊、共著は1冊になる。英語の平和・紛争学事典で1章を担当した。くわえて、共著による英語論文は3本、単著による英語論文は2本を公刊した。さらに、関連する日本語の研究書を2冊（共編著）出版した。また、国際共同研究の成果をPan European Conference on International RelationsおよびInternational Studies Associationにて学会報告した。国際共同研究の研究網を活かして欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラムが採択された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、平和構築論で議論されてきた折衷的アプローチについて、先行研究では比較的軽視されてきたアジア地域（東南アジア）の事例分析を提供することで、アジア地域への適用性を確認した。アジアのみならず欧米やオセアニアの研究者との研究交流や理論研究者と地域研究者との対話を通じて、本研究の成果を共有しつつ、研究結果の検証が進めることができた。これが最大の学術的な意義である。また、より効果が高く持続性の高い平和構築のアプローチを提示することで、平和構築に従事する実務家の行動指針となる研究を提供することができた。書籍や論文の公刊を通じて、研究の成果を普及させることができ、社会的意義も高まった。

研究成果の概要（英文）：4 books written in English, including edited and co-edited books, were published. As for book chapters in English, 4 single authored chapters and 1 co-authored chapter were published. 1 chapter was published in Palgrave encyclopedia on peace and conflict studies. In addition, 3 co-authored papers in English and 2 single authored papers in English were published. Moreover, related books in Japanese were published (serving as a co-editor). 2 presentations were made in the 14th Pan European Conference on International Relations, and International Studies Association in 2021. Utilizing the research network built, a large international research project titled Open Research Area for the Social Sciences has been adopted.

研究分野：conflict studies

キーワード：平和構築 折衷的平和構築 紛争研究 アジア 東南アジア

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

平和構築の学問分野での理論についての議論として、外部（欧米）が主導するリベラル平和構築、現地社会の文脈を重視するローカル平和構築などが存在した。そして、両者を折衷させるハイブリッド・アプローチを提唱する議論も活発であった。しかし、それらの議論の裏づけとなる実証研究は、アフリカ地域の内戦の事例が中心で、アジア地域の事例研究は乏しかった。

アフリカ地域の事例では、内戦により国家が破綻した状況下で、国連などの外部主体が平和構築支援を主導することが多い。国家が破綻しているわけではなく局所的な内戦状況にあったアジア地域の状況と先行研究に多いアフリカ地域の事例では事情が異なる。国家主権の壁が厚いアジア地域では、国連などの部外者の関与も限定的となってしまう。

そこで、外部と現地とのハイブリッドを主張してきた折衷的平和構築の議論の適応性をアジア地域の事例で検証することにした。そして、その研究から導き出された成果を欧米の平和構築論の研究者やアジア地域研究を専門とする研究者と共有し、精緻化していくことを試みた。ただし、ここでアジアの対象地域に設定したのは、東ティモール、インドネシア（アチェ）、スリランカ、カンボジア、ミャンマー、フィリピン（フィリピン）に限られている。

2. 研究の目的

折衷的平和構築論では、実際の平和構築の過程は、外部からもたらされる新しい異質な概念・価値観・制度と平和構築が試みられる現地に根ざした文化的・伝統的・歴史的な要素とのハイブリッドであると主張する。先の研究では、折衷的平和構築論の視点から複数のアジア地域の紛争後の平和構築の過程を分析することで、教訓を導き出すことに成功した。

その教訓とは、三つに大別できる。まず、和平合意の中核となる権力分有のアレンジメントは、中央のエリートと周縁部のエリートとの関係（合意）によって定まる。次に、草の根コミュニティの門番役（Gatekeepers）を務める中間指導者が、外部と現地との調整（受容・抵抗・修正・適応）の鍵を握る。最後に、平和構築の持続可能性は、門番役を介した外部と現地との調整や中央と周縁との対話を通じて合意内容を絶えず見直し修正することで高まる。

今回は国際共同研究を通じて、類似の研究に取り組んできた研究者たちとの対話を重ねることで、先に導き出した教訓を批判的に検証することを目的とした。さらには、折衷的平和構築論の射程を現実の過程を客観的に描写する記述的な分析枠組みから、持続可能な平和構築支援のあるべき姿を唱導する規範的な理論への展開の可能性をも合わせて検証することを目的とした。

3. 研究の方法

カナダ、英国、ニュージーランド、スイスなどの研究機関を訪問し、平和構築論を専門とする欧米の研究者たちとの研究対話の機会を国際共同研究の枠組みのなかで設ける。研究成果を共有し、彼らからのフィードバックを得ることで、これまでの研究成果の見直しや修正の機会とする。シンガポールにおいては、アジア地域研究を観点から平和構築に関連する研究をしてきた専門家との意見交換の機会を設ける。このような研究交流の機会を得ることで、研究成果を批判的に晒し、建設的な助言を得て、理論や結論の精緻化の一助とする。

訪問した国際共同研究のパートナー機関において研究会を開催して議論を重ねるとともに、国際学会における研究報告、学術誌への論文の投稿、専門書の発行を通じて研究成果を世に問う機会を作る。

4. 研究成果

折衷的平和構築論の三つの主要な教訓に対する対話の結果は、次のとおり。

先行研究では、国家の中央エリート間の交渉に注目するものの草の根レベルでの平和構築については十分な検討がなされていない点が再確認された。中央レベルでの決定が草の根レベルに浸透するには、中層指導者の仲介が不可欠であるが、先行研究では、中層指導者の役割について十分な考察がなされてこなかったことも再確認できた。

折衷的平和構築論に対する批判として、国家主権が強く擁護されるアジア地域の文脈においては、外部の影響力が限定的であり、結果として、非リベラルな平和構築が根づいてしまうという懸念が挙げられる。非リベラルな平和構築を抑制できる存在として、NGO や CSO といった外部からの支援を後ろ盾とする現地の新しい組織の新興エリートたちに着目した。外部から平和構築を支援してきたものは、新興エリートとの人脈を通じて、通常は中層指導者との関係性を作り出すことができる。しかし、必ずしも、その人脈のみで十分であるとはいえないことも明らかとなった。

外部からの介入者、中央エリート、新興エリート、中層指導者の間で絶えず、交渉と再交渉がなされていくことで、新しい異質な概念・価値観・制度が現地に馴染んでいく。同時

に現地の文化的・伝統的・歴史的な枠組みが、作用・反作用の関係のもとで、修正されていく（規範の伝播・受容のプロセス）。アジア地域研究者の視点からは、この折衷的平和構築のダイナミズムは、植民地化の過程で生じる現地文化や規範の適応・折衷のダイナミズムと類似しているように見える。

だとすれば、折衷的平和構築論の規範的な展開の可能性については、どのようなことがいえるのか。平和構築の研究者の対話の結果は、折衷的平和構築論を規範的な理論へと昇華させるためには、絶えざる適応のための修正（修正主義）が指針となるというものだった。つまり、平和構築の実務家（通常は外部からの支援者）が、心がけるべき指針は、平和構築の過程とは常に折衷的であるため、常に現地の需要に敏感になり、必要な修正を絶えず加えていく、というものに集約される。つまり、折衷的平和構築論の観点からは、どのような折衷が望ましいのかを予め処方することはできないものの、柔軟な姿勢で臨むことで適切な折衷の塩梅を探し続けようとする態度が重要なことが導き出された。

次に、以上の学術的成果が、どのような国際共同研究から生まれたのかを成果物とともに紹介する。

カナダの研究者との国際共同研究を通じて、共著の書籍を公刊した（*UN Governance: Peace and Human Security in Cambodia and Timor-Leste*）。英国の研究者との国際共同研究を通じて、学術誌の *Global Society* にて特集号を企画し、Reconstructing the International Peace Architecture in the Asian Century というタイトルの導入論文と The Western International Peace Architecture and the Emergence of the Eastphalian Peace というタイトルの論文を公刊した。

学術誌の *Asian Journal of Peacebuilding* では東ティモールの国家建設に関する特集号を企画し、東ティモールの研究者やニュージーランドとオーストラリアの研究者による協働の結果として Trajectories of Twenty Years of State-building in Timor-Leste: Introduction to the Special Issue という導入論文と Evaluating Security Sector Reform in Timor-Leste: The Triad Hybridity Nexuses というタイトルの論文を公刊した。

スイスでは国際共同研究を通じて、The Function of the Dominant Coalition in Controlling Violence in Timor-Leste というタイトルの章（*Achieving Sustaining Peace through Preventive Diplomacy* に所収）、Controlling Violence by the Dominant Coalition: A Comparative Study of the Philippines (Mindanao) and Myanmar というタイトルの章（*Alternative Perspectives on Peacebuilding* に所収）、Irregular forces in Timor-Leste というタイトルの章（*Pathways for Irregular Forces in Southeast Asia* に所収）を公刊した。

アジア地域を研究対象とする地域研究者との交流は東南アジアを拠点に成果を上げた。上記の出版につながる研究をタイやインドネシアで開催された学会にて報告した。

以上の国際共同研究を足掛かりとし、英国、カナダ、フランスの研究者と実施する新たな国際共同研究の採択という成果も生まれた（日本学術振興会「欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム」）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 5件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Uesugi Yuji, Richmond Oliver P.	4. 巻 35
2. 論文標題 Reconstructing the International Peace Architecture in the Asian Century	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Global Society	6. 最初と最後の頁 419 ~ 434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13600826.2021.1948393	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Uesugi Yuji, Richmond Oliver P.	4. 巻 35
2. 論文標題 The Western International Peace Architecture and the Emergence of the Eastphalian Peace	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Global Society	6. 最初と最後の頁 435 ~ 455
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13600826.2021.1942803	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Yuji Uesugi	4. 巻 9
2. 論文標題 Evaluating Security Sector Reform in Timor-Leste: The Triad Hybridity Nexuses	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Peacebuilding	6. 最初と最後の頁 111-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Yuji Uesugi	4. 巻 9
2. 論文標題 Trajectories of Twenty Years of State-building in Timor-Leste: Introduction to the Special Issue	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Peacebuilding	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 UESUGI Yuji、KOBAYASHI Kazushige、HONDA Tomoaki	4. 巻 13
2. 論文標題 Japan's Peacebuilding under the Abe Administration: Change and Continuity, 2012?2020	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 East Asian Policy	6. 最初と最後の頁 94 ~ 107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1142/S1793930521000076	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

[学会発表] 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Yuji Uesugi
2. 発表標題 Mid-space Gatekeepers in Mindanao: Unpacking the Functions of the 'Civil' Society in Hybrid Peacebuilding
3. 学会等名 International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuji Uesugi
2. 発表標題 Global Partnership Beyond the West: Mid-space Gatekeepers in Hybrid Peacebuilding in Mindanao
3. 学会等名 European International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuji Uesugi
2. 発表標題 Global Partnerships Beyond the West: Mid-Space Gatekeepers in Hybrid Peacebuilding in Mindanao
3. 学会等名 International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2020年 ~ 2021年

1. 発表者名 Yuji Uesugi
2. 発表標題 Security Sector Development in Timor-Leste: the Genesis of Hybrid Community Policing
3. 学会等名 Asian Political and International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuji Uesugi
2. 発表標題 The Role of Mid-Space Local Bridge-Builders in Hybrid Peacebuilding
3. 学会等名 International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuji Uesugi
2. 発表標題 Evaluating the Legitimacy of UN 'Neo-Trusteeship' in Timor-Leste from a Viewpoint of Human Security of the 'Locals'
3. 学会等名 Asian Political and International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuji Uesugi
2. 発表標題 Bridging Gaps between Local Ownership and Global Peacebuilding Intervention: A Case Study of Timor-Leste
3. 学会等名 Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 Yuji Uesugi, Anna Deekeling, Sophie Shiori Umeyama and Lawrence McDonald-Colbert	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 203
3. 書名 Operationalisation of Hybrid Peacebuilding in Asia	

1. 著者名 Yanjun Guo, Lin Wu, Yuji Uesugi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 World Scientific	5. 総ページ数 304
3. 書名 Case Studies on Preventive Diplomacy in the Asia-Pacific	

1. 著者名 Brendan M. Howe, Sorpong Peou, Yuji Uesugi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 156
3. 書名 UN Governance	

1. 著者名 Yuji Uesugi, Kwok Chung Wong and Lady Mahendra	4. 発行年 2020年
2. 出版社 World Scientific	5. 総ページ数 285
3. 書名 Case Studies on Preventive Diplomacy in the Asia-Pacific	

1. 著者名 藤重 博美、上杉 勇司、古澤 嘉朗	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 ハイブリッドな国家建設	

1. 著者名 Mitsuru Yamada, Miki Honda, Yuji Uesugi	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Union Press	5. 総ページ数 234
3. 書名 Complex Emergencies and Humanitarian Response	

1. 著者名 Oliver P. Richmond, Gezim Visoka, Yuji Uesugi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 1790
3. 書名 The Palgrave encyclopedia of peace and conflict studies	

1. 著者名 Atsushi Yasutomi, Rosalie Arcala Hall, Saya Kiba, Yuji Uesugi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 199
3. 書名 Pathways for Irregular Forces in Southeast Asia: Mitigating Violence with Non-State Armed Groups	

1. 著者名 Mark S. Cogan, Hidekazu Sakai, Yuji Uesugi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 355
3. 書名 Alternative perspectives on peacebuilding : theories and case studies	

1. 著者名 Yanjun Guo, Zhili Han, Yuji Uesugi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 World Scientific	5. 総ページ数 392
3. 書名 Achieving Sustaining Peace through Preventive Diplomacy	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ペウ ソーポン (Peou Sorpong)	ライヤソン大学・Department of Politics and Public Administration・教授	Ryerson University 現在では大学名がToronto Metropolitan Universityに変更

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ロイゼイデイス ネオフィトス (Loizides Neophytos)	ケント大学・School of Politics & International Relations・教授	University of Kent
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	クレメンツ ケビン (Clements Kevin P.)	オタゴ大学・National Centre for Peace and Conflict Studies・教授	University of Otago
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	カバレロ アンソニー メリー (Caballero-Anthony Mely)	南洋工科大学・S. Rajaratnam School of International Studies・教授	Nanyang Technological University
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	リー ソヨン (Lee SungYong)	オタゴ大学・National Centre for Peace and Conflict Studies・准教授	University of Otago

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
その他の研究協力者	クラウス キース (Krause Keith)	ジュネーブ大学院大学・Centre on Conflict, Development, and Peacebuilding・教授	The Graduate Institute of International and Development Studies in Geneva
その他の研究協力者	リッチモンド オリバー (Richmond Oliver P.)	マンチェスター大学・National Centre for Peace and Conflict Studies・教授	University of Manchester

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計8件

国際研究集会 Security Sector Reform: The State of the Concept in Policy and Practice	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Preventive Diplomacy and Early Warning: Linkages for Conflict Resolution	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 East Asian Forum on UN Peace Operations	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Reconstructing the Architecture of International Peacebuilding	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Korea and the Vision of a Combined Future: From Division to Peaceful Reintegration	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Peace in Aotearoa-New Zealand: Past, Present and Future	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Peacebuilding Seminar on Reconciliation	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Unpacking Civil Society in Mindanao	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
カナダ	Ryerson University			
英国	University of Kent			
ニュージーランド	University of Otago			

共同研究相手国	相手方研究機関			
シンガポール	南洋工科大学			
スイス	Geneva Graduate Institute			